

春のシンポジウム 4月14日(土) 於:静岡労政会館

『就労支援の現状と課題』

報告 布川日佐史氏(静岡労研所長)

「就労支援の現状と課題」

失業の長期化の中で、震災・原発事故の影響も受けて、就労可能な生活困窮者が増加しています。支援の対象が、中高年から若者へ重点が変化しています。支援の担い手は、ハローワーク、自治体、受託事業者など、多様な展開をしています。寄り添い型支援の効果が現れている反面、生活保障給付の要件として、就労の義務付けをする危険性も出ています。労働組合、職業紹介/就労支援/職業訓練/雇用創出に、どのように関わっていくかも、今後の課題です。

報告 小川洋氏(全労働 調査部)

「ハローワークの就労支援」

ハローワークは、だれでも無料で利用できる国の全国ネットワークです。職業相談をはじめ多様な業務が行なわれていますが、職員数は減少し、職員一人当たり失業者数は、イギリスが23人に対し、日本は283人です。その中で、職員数の3倍の非常勤職員が1年契約で働いています。さらにハローワークを地方委譲し、さらに民間委託にしようという動きが進められています。有効な就労支援と一体となった、生活保障としての求職者保障制度が求められます。

報告 永戸亮氏(ワーカーズコープ

静岡就労支援事業所 所長)

「生活保護受給者等の就労支援」

静岡県の委託事業として、生活保護・住宅手当受給者の就労支援をしています。これまで848人の支援を行い、195人(22%)の就労が決定しました。その取り組みの中から見えてきたこととして、県庁・福祉事務所・ハローワークとの連携づくり、社会的偏見による孤立からの変化、人間本来のつながりを求める心の確認、NPOや企業とのネットワークの構築などがあります。今後の課題として、就労体験・技能講習など支援メニューの多様化、様々な人が働ける就労の場の創出、支援対象者が自立から支える側にまわる仕組みづくりなどがあります。

第45回浜松支所 所員会議

4月26日(木) 於:西部地区労連

最初に春のシンポ「就労支援の現状と課題」の感想について、「初めて知った」「とても重要な指摘だ」「もっと多くの人に知らせたい」などが述べられました。

議題として、労働時間調査に引き続き取り組んでいき、秋頃を目途にまとめていくことを確認しました。今後のテーマとして、スズキ、ホンダ、河合等の職場からの報告を検討しようということが話されました。

今回は、5月31日(木)18:30から、西部地区労連で、「リーマンショック後の浜松製造業の動向」(仮題)として、藤井史朗氏(静岡大学教授)が報告をされます。

【今後の日程】

5月25(金)18:00~

ブックレット発行記念会 於:コマトラ

5月31(木)18:30~

浜松支所定例会 於:西部地区労連

6月23日(土)13:00~

夏のセミナー 於:静岡県評会議室

*連絡先:〒422-8062 静岡市駿河区稲川2-2-1 コハラサウスサイドビル7F

静岡県労働研究所 TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973

メール roudouadv@wave.wbs.ne.jp ホームページ <http://www.geocities.jp/shizuokarouken/>